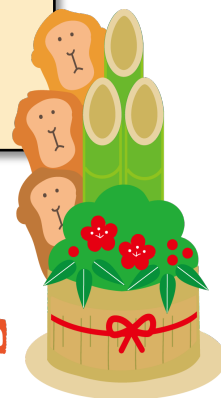




Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE 2016



新年明けましておめでとうございます。今年は申年ということで、軽快な足取りで好奇心を持って過ごし、今年こそはなにか新しい事に挑戦しよう！と心に決めたお正月です。皆様も、新年の目標新たに、健やかな一年となりますよう、お祈り申し上げます。本年もこのオルガン通信を、そしてミュージズのオルガンをどうぞ宜しくお願い致します！

🍏 2月19日（金）500円コンサートは姫路から岩佐智子さんをお迎えします！

今年度3回目となる500円オルガンコンサートは姫路パルナソスホールのオルガニストを務める岩佐智子さんをお迎えしてお届け致します。朗らかなお人柄が印象的な岩佐さんですが、私と岩佐さんにはある共通点が！なんと同じ年齢なのです。大学を卒業する時に出演させて頂いた日本オルガニスト協会主催の『新人演奏会』にも一緒に出演していたのですが、その時は残念ながらお話をする機会がなく、その後10年近く経った今、このようにして所沢ミュージズに岩佐さんをお迎えできる事とても嬉しく思っています。同年代でホール・オルガニストを務めている方も少ないので、その点でも親近感を抱きます。姫路のホールでお客様向け公演の経験も豊富な岩佐さんが、午前中の0歳からのコンサートでどの様に演奏して下さるのか、今からとても楽しみです。所沢ミュージズが誇るオルガンの調べに、ぜひ耳を傾けにいらして下さい！



2月19日（金）11時開演：0歳児から入場可能のお子様向けコンサート



14時30分開演：オルガン作品を存分に楽しんで頂ける1時間のプログラムによるコンサート
どちらの回も、沢山のお客様のご来場をお待ちしています♪

🍏 昨年12月のクリスマスコンサートはドイチュ氏による庄巻の演奏！！

昨年末にはヘルムート・ドイチュ氏によるクリスマス・オルガンコンサートが開催されました。クリスマス直前の祝日ということもあって、沢山のお客様にご来場頂きました。やはりクリスマスはオルガン音楽を聴きたい♪という思いで足を運んで下さった方が多かったのではないのでしょうか。イエス・キリストの生誕をお祝いするクリスマス。教会では礼拝をもって賛美しますが、所沢ミュージズでもドイチュ氏の演奏を聴きながら、クリスマスの喜びを存分に感じる事ができました。

現在ドイチュ氏が教鞭をとられているドイツ、シュトゥットガルト音楽大学のホールにはなんと、ミュージズのオルガンの兄弟とも言えるオルガンが導入されています。同時期に同じオルガン製作会社『リーガー社』によって製作された楽器で、音色の構成や鍵盤数、パイプの数もほとんど同じなのです。しかし、両方の楽器を知る方は決まって、それぞれの楽器の響きの違いについてお話しされます。それもそのはず、オルガンは会場の反響やその会場での最終調整によって響き方が大きく変化し、同じ様な規格で作られた楽器でも、全く違う様に響くのです。



レッスンやコンサートを通して、このオルガンの特性を熟知されているドイチュ氏。今までに耳にした事のないような美しい色彩による音色作りが進められていきました。私もリハーサルの2日間に立ち会い、音色作りのお手伝いをしながら、とても幸せな数日間を過ごさせて頂きました。一番近くで、このような気迫溢れる演奏を聴けるのはホール・オルガニストの役得ですね！！平淡になりがちなオルガンの音が自在に広がりを見せ、作品ごとの様式感を逸脱することなく自由に音楽を表現していらした姿に非常に感銘を受けました。ミュージズのリーガーオルガンも、ドイチュ氏に演奏して頂いてとても喜んでいる、そんな印象を受けた素晴らしい演奏会となりました。聴きに來て頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

【写真は左から、終演後ドイチュ氏、奥様、筆者のスリーショット/チラシにサインをするドイチュ氏/公演前最終リハーサルの光景】

🍏パリ・オルガンぶらり旅⑥ 16区、フランス公共ラジオ放送局に新たな大オルガンが！！

オルガン通信Vol.50の『パリ・オルガンぶらり旅⑤』では、19区のフィルハーモニーホールに新設されたリーガー製オルガンについてご紹介しましたが、昨年パリではコンサートホールに大規模なオルガンが立て続けに導入されました。フィルハーモニーホールに続いて昨年12月には、パリに本部を置くフランス公共ラジオ放送局『ラジオ・フランス Radio France』内に新設された大ホールに、スペイン人のオルガン製作家によるオルガンが導入されたのです！

さて、パリ16区とはどのような界隈でしょうか？パリ西側に位置し、エッフェル塔の対岸に位置する閑静な高級住宅街です。パリ万国博覧会のために建てられたトロカデロ宮殿の跡地に建てられた大型展示会場シャイヨー宮がセーヌ川沿いの丘に広がります。この界隈を散歩していると、19世紀オスマンのパリ大改造計画によって整えられた放射状の大通りや、ため息が出るほど美しい、アールヌーヴォー様式に装飾されたアパルトマンを目にする事ができます。16区には、20世紀最高のソプラノと称されるマリア・カラスが暮らし、息を引き取ったアパルトマン（ジョルジュ・マンデル通り36番地）もあるのです。



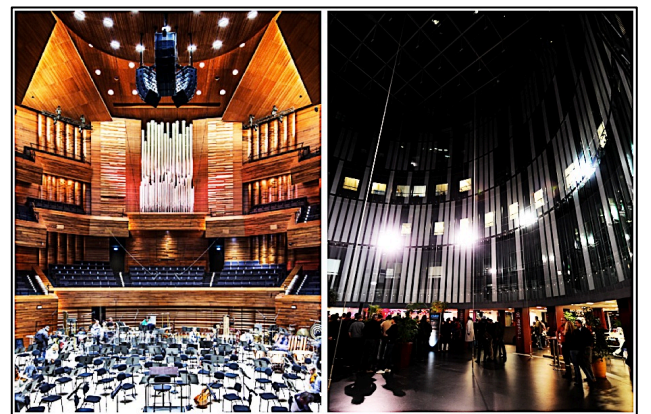
ラジオ・フランスってどんなところ？

日本のNHK放送局にあたるラジオ・フランスは、左の写真の様にセーヌ川に面して建てられた円形のモダンな建築です。ラジオ・フランスで働いているオルガニストの友人に一度施設を案内して頂いた事があるのですが、右下の写真の様に、施設内部はとてもお洒落で、



創造の息吹に満ちあふれた雰囲気がありました。この中央の塔の上層部には社員食堂があり、パリの街並が展望できる穴場スポットです。ここでは、政治、スポーツ、文化、音楽などに特化した独立した会社が制作するラジオ番組の総括運営、その他に録音スタジオやコンサートホールを備えています。そこでは、放送局を拠点とする2つのオーケストラ『フランス国立管弦楽団』と『フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団』、そして『ラジオ・フランス合唱団』による演奏会を企画・運営し、多彩なプログラムが組まれています。これらのラジオは、今や日本でもインターネットを通して気軽に聞く事ができます！

オルガンINFO この円形の建物の内周に、ベルリンのフィルハーモニーをモデルにした円形のホール（1461席）が新たに建設され、その中にオルガンが同時に設置されました。ラジオ・フランスの建物全体の改修に合わせて2003年から始まったこれらの工事は、ついに2015年11月14日に完成を迎えました。日本が誇る永田音響によって音響をコントロールされた木目調の格調高いホール。その正面舞台から12mの高さには、スペインのオルガン製作家グレンツィング氏による4段の鍵盤、87ストップ、5320本のパイプを持つ（所沢ミューズのオルガンは75ストップ、5563本のパイプを所有）大オルガンが象徴的に置かれています。実はこのオルガンはスペインのオルガン工房で実際に組み立てられ、既に著名なオルガニスト達によってお披露目されています。それを一度解体し、昨年12月初旬にホールに運んで組み立て、これから最終作業である整音作業（会場での響きを聞きながら、各パイプの発音を調整する作業の事）を進めていきます。少しずつ演奏会で使用しながらホールの空気に馴染ませ、パイプに風を通すための弾き込みを重ね、来年5月に公式完成披露演奏会を迎えます。近年コンサートホールにオルガンが次々と導入されたフランス。どのような使われ方をするのか、これから目が離せません！



🍏次回のオルガン通信では、3月5日のリサイタルの全貌が遂に明らかに！



3月5日（土）には私、梅干野安未による2回目のリサイタル『パリの作曲家たち～バッハへの眼差し～』が開催されます。ゲストには東京芸術大学の准教授を務めていらっしゃるフルート奏者の高木綾子さんをお迎えします！次回のオルガン通信（2月15日発行予定）では、このタイトルだけではお伝えきれない具体的な内容をたっぷりとお知らせ致します。昨年の演奏会ではフランツ・リストの作品を通して、ピアノとオルガンとの聴き比べ企画を行い大好評を頂きましたが、今回もそれに勝る充実の内容となるよう、準備を進めております。今回はフランスのオルガン音楽とバッハとの関係が明らかになること間違いありません！ぜひ次回のオルガン通信をお楽しみにお待ちしております、そして演奏会にも足を運んで頂ければ幸いです。